

2015年(平成27年)1月26日(月曜日)

列島ダイジェスト

サンキ、試験管を空気で保温

【京都】電子部品製造・開発のサンキ(京都市、大久保康社長)は、試験管を空気で保温する装置を開発した。水で温める従来式の装置に比べ、試験管内に雑菌やほこりが混入しにくく、検体の汚染を防ぎやすい。装置に差し込んだ試験管に温かい空気を送り込むことで、セ氏32〜42度で保温する。容量が15ミリと50ミリの試験管に対応し、計4本を一度に処理できる。1台の価格は約8万円。研究機関などを対象に、年間100台以上の販売を目指す。

日本経済新聞

1月26日

月曜日